

## 週日の説教

金 大烈 神父 2011年11月12日(土)

《気を落とさずに祈る ～祈れば必ずきいてくださる～》

今日の福音(ルカ 18・1 - 8)の一番大事な箇所は、一番前の「**気を落とさずに絶えず祈らなければならないことを教えるために**」です。

“気を落とさず”とは、どういう意味でしょうか。私たちは、いろいろなことを願い、祈っています。しかし、神様からあまり反応が聞こえなければ、がっかりしてやめてしまいます。「神様は、私のことにはあまり関心がないみたいだ」と考えるようになり、祈る習慣から遠ざかってしまいます。しかし、私たちの考えと神様の考え方は違うのかもしれませんが、イザヤ書の55章8節には、「わたしの思いは、あなたたちの思いと異なり、わたしの道はあなたたちの道と異なる」と書かれています。

皆様は、ミサの時間以外によく祈るほうでしょうか、それともあまり祈らないほうでしょうか。一日のうち、祈るためにどのくらいの時間をかけていますか。もちろん、ここにいらっしゃる方の中には、熱心な方がいらっしゃいます。朝、晩の祈り、そして必ずしなければならない祈りをされる方がいらっしゃるのもわかっています。しかし、そうではない方にお聞きします。一日のうちに、祈ることだけを目的に、ろうそくに火をつけて、ひざまずいて、どのくらいの時間を過ごしていますか。おそらく、そんなに長い時間ではないと思います。私もそうです。ミサと朝夕の黙想の時間以外は、ほとんど祈りとは別の世界に住んでいます。しかし私は、今まで、神様が私の祈りを聞いてくださらなかったことは一度もなかったと思います。つまり、神様は私たちが祈れば必ず聞いてくださるのです。それなのに、私たちが祈っていないということです。祈りたくないのです。私たちには、自分の頭を信じて、自分の力で何かをしようとする癖がついているのです。

「本当に、一度もイエス様が断ったことはないのか」と疑う方もいらっしゃるかもしれませんが。しかし私が覚えている限り、願った時、場所ではなかったかもしれませんが、振り返ってみると、イエス様が私に一番よいことを選んでくださった、という結論になります。私が「パンをください」と祈った時に、パンは手に入らなかったかもしれませんが、しかし、時間が経ってみると、そのパンがなくてもこのように元気に丈夫に生きています。それは、**私たちが考えるのとは違う方法で、イエス様が私たちに必要なものを与えてくださっているから**です。

大事なものは、祈る心があるかどうかの問題です。『祈る心』とは、祈りたい気持ちがあるかどうか、ということです。

皆様が、「蛇が欲しい。蛇の毒が欲しい。」と願ったとしましょう。その毒を与えることが、イエス様が祈りに応じたことになるのでしょうか。そうではありません。願っても絶対にくださらないでしょう。そのように、私たちの祈りが間違えているから、答えがないのかもしれませんが。ですから粘り強く、目の前だけを見ないで、遠く、自分の人生全体を見ながら、そして永遠の命を考えながら祈ることが何よりも必要だと思います。それとともに、私たちが強く願えば、イエス様は知らん振りはお出

来ない方であることも考えて祈ってください。イエス様は既に私たちが何を望んでいるかを分かっています。しかし、祈らずに、願わずに、成し遂げられることはありません。たぶんイエス様は、そういうことに一番心を痛めているのだと思います。だから、「気を落とさずに絶えず祈らなければならない」とおっしゃったのです。

願いましょう。そして、願えば必ずふさわしいこと以上の結果が出るのを信じてください。

ありがとうございました。